

# 多問題家族への かかわり方を考える

## 事例提出者

Kさん（在宅介護支援センター・ソーシャルワーカー）

## 事例の概要

**A氏 男性・78歳**

**病歴** 気管支喘息、糖尿病、老人性痴呆

**生活歴** 昭和37年、知的障害者の妻と結婚（当時妻は身重）。息子（B氏）が離婚した後は孫（Cさん）の養育もしてきた。

平成10年、妻に生活能力がまったくないことから離婚。現在、妻は救護施設へ入所中。

**職歴** 国鉄の線路やごみ処理場の清掃業務等。

**経済状態** 厚生年金（月10万円）。持ち家があったが、息子の借金（1000万円）返済のために売却し、借家暮らしとなる。現在は老人保健施設入所中。金銭管理は知人のT氏が担う（T氏

は借家の保証人でもある）。

**B氏 男性・43歳**

**病歴** シンナー中毒後遺症

**生活歴** 中学生の頃からシンナーを吸い、現在も、仕事がなく精神的に不安定な時は吸っている様子（精神科入院歴あり）。平成12年4月、刑務所より出所後は、父親と同居している。

**職歴** 大型建設機器や電気関係の資格を有するため、仕事があるときは真面目に働く。

**経済状態** 経済観念が乏しく、給料が入ると友人との飲食代に回す。お金がなくなると両親名義で銀行やサラ金でローンを組んだり、勝手に家財を売ったりする。

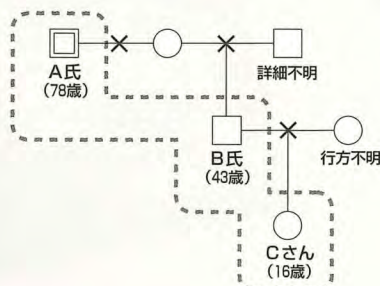
**Cさん 女性・16歳**

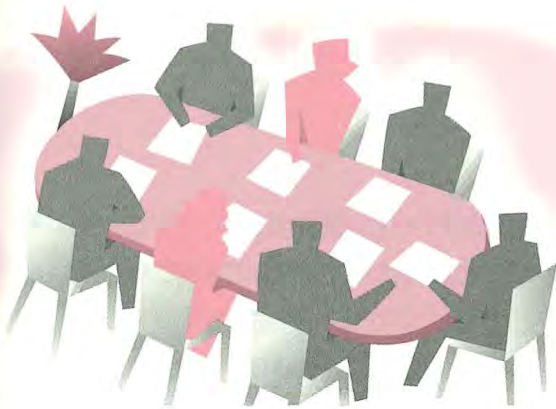
**生活歴** 乳児のころ両親が離婚（母親は行方不明で一度も会いに来たことがない）。父親（B氏）が売春行為をさせようとしたことから、中学2年の時に児童養護施設へ入所。平成13年4月、卒業と同時に夜間高校進学を理由に父親が引き取るも、1日も登校せず。現在、一応父親と同居のかたちにはいるが、友達の家などを泊まり歩き、不在のことが多い。

**職歴** 何度か面接を受けるも、「中卒」ということで不採用が多く、本人の就労意欲も低い。

**経済状態** 男友達や彼氏から援助してもらっている様子。

■ジェノグラム





スーパーヴァイザー・奥川幸子氏を招いて開かれた事例検討会の模様を紹介します（検討会及び事例の内容は、誌面の都合及びプライバシー保護の観点から、全体の趣旨に差し支えない範囲で変更させていただきました）。

## 援助経過

平成12年5月23日

地域でA氏家族の面倒をみているT氏より、「Aさんに少し痴呆が入ったようなので、介護保険の申請をしたい」との電話が入る。

6月1日

認定調査のため、A氏宅を訪問。同席したT氏が「物忘れがひどく、風呂の水も出しっぱなしにして、畳まで濡らして大変だった」と言われるのに対して、A氏は「自分のことは何でもできるから大丈夫」と話される。頑固ではあるが、どこか憎めない性格のように感じ取れる。食事と服薬の管理をT氏に依頼して帰る。

7月1日

認定が要介護1と出たため、介護サービス計画について話し合う。T氏は、「私でご飯の面倒はみるから、デイケアで足が弱らないためのリハビリと入浴をしてもらえばいい」と言われ、A氏は「ヘルパーに来てもらってもいいけど、T氏の気持ちもあるし」と口を濁す。結局、食事と服薬の管理は今までどおりT氏が行い、週3回の通所リハビリにて入浴と生活リハビリを行うこととなる。

8月10日

「毎日トイレを汚すので、掃除をするのに疲れた。部屋をきれいにする間、ショートステイを

利用したい」とT氏より電話あり。8月18日～9月末まで、T氏の介護負担軽減とA氏の生活環境を整備する目的で老健施設入所。入所中に老人担当の保健婦と面接を行い、退所後の健康管理と他の家族への様子観察のため、月1～2回の訪問指導を導入することとなる。

10月4日

担当保健婦より、老健施設退所後に開始した配食サービスを本人が断ったと連絡あり。自然食志向の自分には合わないという理由らしい。3食運ぶT氏の負担を軽減するため、ヘルパー導入について勧めていくことにする。

10月18日

T氏より電話あり。A氏の物忘れがひどく、自分がどこかにしまい忘れた小遣いを「お前が盗っただろう」と夜中に電話してくるので、お金を管理してあげても負担になるとのこと。物忘れからの症状であり、本来一番信頼しているのはT氏であることを話す。被害妄想があり、A氏の不安感を増強させることになる可能性があることから、ヘルパー導入についてはしばらく様子を見ることにする。

平成13年1月18日

訪問。Cさんの卒業後のことで、B氏、T氏、Cさん、児童相談所の4者で話し合いをもったというので、その結果をA氏とT氏から聞く。話し合いでは、B氏の娘を引き取る意志は



強く、Cさんも「お父さんと同居して、夜間高校に進学する」と話したとのこと。しかし、B氏は今年に入ってから仕事をしていないためか、あるいは娘のことで精神状態が不安定なためか、時々シンナーを吸っている様子（シンナーについては派出所に相談してあるが、現場を押さえる必要があるため巡査部長の巡回にとどまる）。A氏は「Cは俺の横の部屋で寝ればいい」と同居についてはまんざらでもなさそう。

2月16日

A氏が「1部屋あればどこでもいいから、アパートを探してくれ」と暗い表情で支援センターに来所。「息子と住んでいても、声もかけてもらえない。懸命に育てても他人同然だし、将来どうなるかわからん」と不安気に話されるので、入所まで2～3年かかるが特別養護老人ホームへの入所について説明する。代理申請の話をする「頼む」と言われる。この時点で緊急入所の可能性があることを母体施設である老健施設の相談員に相談し、男性部屋の空きが出たら知らせてもらうよう依頼する。

4月15日

中学卒業後、A氏、B氏と同居を始めたCさんが行方不明になったとT氏より連絡あり。夜間高校の入学式には出たものの、その後まったく登校せずに女友達と遊び歩いていたが、夕べから姿が見当たらず、派出所の巡査部長や保護司に探してもらっているとのこと。

5月20日

A氏、Cさん、T氏、老人担当保健婦、精神担当保健婦とA氏宅にて今後のことを話し合う（B氏は、話し合いのことは告げていたにもか

かわらず外出した様子）。

A氏—「お前たちと暮らしても何にもならん。どこでもいいから入所したい」

Cさん—「お父さんと暮らすより、お金を貯めて自分でアパートを借りたい。アパートも友達のところを考えている。彼氏と会えなくなるので、施設には行きたくない」

Cさんには、自立したい気持ちがあれば、アルバイトでもいいから探すように話し、A氏には老人保健施設入所の順番待ちのことを話す。また、B氏については生活能力が高いと判断



し、将来的には3人が別々に生活することが望ましいのではという結論になる。

6月21日

A氏が来所し、電話、水道が止められたとのこと。在宅での生活に不安がある様子。「病院でもいいから入れてほしい」と言われるので、老健施設入所のことを話すと納得される。また、T氏へ老健施設入所までの3カ月間で自分たちの将来について考えてもらうように伝える。

7月18日

T氏より電話あり。A氏は便失禁が頻回にみ

られ、下着やシーツを汚す。また、1回に3合のご飯を食べてしまったりするとのこと。

8月21日

T氏へ老健施設入所の順番がきていることを告げる。今後のことをB氏とCさんに確認すると、B氏は「またホームレスにでも戻るか」と言いながらも、市外での仕事の当てがある様子。Cさんは「県外にでも行けば中卒でも仕事が見つかるかも」と楽観視している。2人とも、T氏から事前に話を聞かされていた様子。

9月1日

A氏、老健施設入所

9月13日

T氏より、B氏が「15日には給料が入るので来月分の家賃をもって来る」と約束したとの連絡が入る。

10月20日

T氏に現状を確認。B氏が11月分の家賃を持ってきたときに、老健施設のクリスマス会の話をすると、A氏へのプレゼント代として3000円置いていったとのこと。借家の部屋は清潔にしておき、どこに仕事に行ったか印を付けるよう指示したカレンダーを見ると、他市の現場へ朝早くから出かけている様子。Cさんは、ここ10日間くらい家を出ているが、「今日は帰る」というメールが携帯に入っていたとのこと。

## ケース検討会

**奥川** 今、Kさんのなかで一番引かかっているのは、どんな点ですか。

**Kさん** 在宅介護支援センターの立場だけで言うと、Aさんが老人保健施設に入所したことで、一応援助は終了したと考えてもいいと思うのですが、それだけではこの世帯の問題が解決したことにはならないし、BさんとCさんがこの先、社会で生きていくための支援方法がないか、もしそういう方法があるのであれば、何かしたいという気持ちがあります。

**奥川** 迷っているということですか？

**Kさん** できればかかわっていきたいのですが、その方法がわからないのです。

**奥川** かかわる気持ちはあるが、方法がわからない。では、今日はその方法を検討するという

ことでよろしいですか？

**Kさん** はい。よろしくお願いします。

### A氏の知的能力を探る

**奥川** では、まずこのケースに登場するAさん、Bさん、Cさん、Tさんがどのような状況に置かれていたのか、より詳しくアセスメントするための情報をKさんから引き出してみてください。

**発言** Tさんの年齢、性別、家族構成等を教えてください。

**Kさん** 65歳の女性です。未婚の娘さんとお二人暮らしです。ご主人は若い頃になくされて、現在はパートをしていらっしゃいます。近所では有名なお世話好きな方で、Aさん一家とは古



くからのお付き合いです。

**発言** Tさんは、Aさんのお金をどの程度管理されているのですか。

**Kさん** 家賃、光熱費など、基本的にはすべてTさんが管理しています。

**奥川** Tさんがお金の管理をするようになったのは、いつ頃からですか？

**Kさん** Bさんが出所する少し前からです。

**奥川** それまでは、Aさんが管理していたのですね。

**Kさん** そうです。Bさんがつくった1000万円の借金を処分するために家を売る手続きなども、Aさんがご自分でされました。

**発言** Aさんと別れた奥さんは、どういう経緯で結婚されたのですか。

**Kさん** そこまではちょっと聞いていません。

**発言** 知的障害があって身重ということはご存知だったんですよね。

**Kさん** 身重だったのは、後から知ったそうです。産み月に入って気がついたのだと思います。

**奥川** 今の質問をしたのはどうしてですか？

**発言** この結婚が後のことに影響している気がしたので……。

**奥川** そう。後々の展開すべてに、この結婚が影響していますよね。大事な点です。結婚時の状況は、情報としてとっていないようですが、要は結婚の経緯から何を読み取るかです。ここから、何が浮き彫りになってきますか？

**Kさん** Aさんの知的能力でしょうか。

**奥川** そうです。このケースでは、Aさんの知的能力がどのくらいあるのかを押さえるのは、大切なことですよ。結婚の経緯以外にも、推

測するポイントはいくつかあります。どんな点を見ればいいでしょうか。

**Kさん** 生育歴——。

**奥川** 生育歴のどこを見ますか？

**Kさん** 両親、兄弟の学歴など。

**奥川** そう。ふつうはそこまでは聞かないことが多いですよ。でも、Aさんの場合は、聞けるなら聞いたほうがいい。それはなぜでしょう。

**Kさん** 家族性の知的障害がないかどうかを知ることができる——。

**奥川** そうですね。そのあたりのことはいかがですか？

**Kさん** Aさんは、地元ではいい家柄の出身で、親戚も社会的な地位や経済力がある方が多いです。ただ、親戚は近くに多くいるのですが、施設に面会に来ることはありません。

**奥川** Aさんご本人の最終学歴や職歴はわかりますか。

**Kさん** そこまではわかりません。職は転々としていたようです。

**奥川** では、現実生活に照らして、Aさんの力を見ていきましょう。皆さん、いかがでしょう。

**発言** Aさんは息子のBさんがつくった借金返済のために家を処分したということですが、この家は親の代からあった家なのか、それともAさんが自分で手に入れたものなのでしょうか。

**Kさん** Aさんが自分で手に入れたものです。ちなみに、AさんがBさんの借金の尻ぬぐいをするのはこの時が初めてではなく、若い頃からずっとしてきたようです。AさんはBさんに破産宣告までさせています。

**発言** 近隣や友人との交友関係はどうですか。

**Kさん** Aさんはとても面倒見のいい性格で、友達はたくさんいました。

**発言** 趣味などはいかがでしょう。

**Kさん** 自然食志向で、その種の本を読み漁ったことがあり、自宅にはかなりの本があります。

**発言** 育児や子どもの教育については？

**Kさん** 奥さんが能力的に低かったこともあって、家事を含め育児全般はAさんが担っていました。育児にはTさん家族もかかっています。

**発言** Aさんは平成10年に奥さんと離婚していますが、これはどんな経緯があったのですか。

**Kさん** 離婚理由の詳細まではつかめていません。奥さんが入院中に離婚されているのですが、奥さん自身は今でも離婚したということがわかっていません。

**発言** 離婚することで、救護施設に無料で入れるというような理由があるのではないかと思っていたのですが。

**Kさん** もしかすると、そうなのかもしれませんが、すみません、詳細はわかりません。

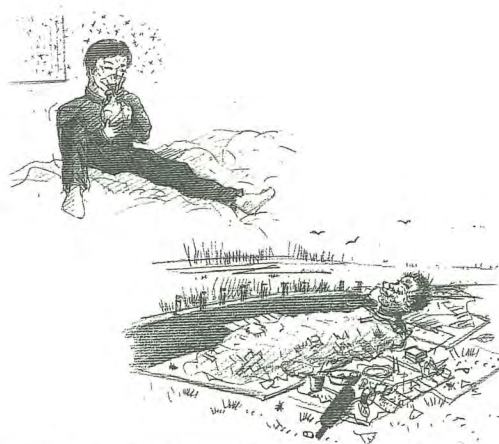
**奥川** これまでの情報を整理すると、自分で働いてお金を貯め、持ち家を持つ。育児も行い、友人との交友もあり、自然食について本を読んで情報収集を行うことができる。Aさんは、そういった力のある方だということが見えてきましたね。

## B氏の生育歴と

### T氏のかかわりの歴史をひもとく

**奥川** では、次にBさんについて状況を浮き彫りにさせる質問をしてみてください。

**発言** Bさんは、いつ、どんなきっかけでシン



ナーを吸い始めたのでしょうか。

**Kさん** 受験の時期に戸籍抄本か何かを見て、Aさんが実の親ではないとわかったことがきっかけだったと聞いています。

**発言** その時、Aさんはどんな対応をしたのでしょうか。

**Kさん** その時期、Aさんは出稼ぎで他県に出ていたようなんです。

**発言** 奥さんはどんな反応を？

**Kさん** それで、奥さんが自分で働いたお金でBさんにシンナーを与えていたようなんです。

**会場** ええ！

**発言** —Bさんの最終学歴はわかりますか。

**Kさん** 中学校卒です。

**発言** シンナーはその後ずっと吸っていたのですか。

**Kさん** 仕事がある時は真面目に働いていたようです。

**発言** でも、親の名義で勝手にサラ金から借りたりするんですね。

**Kさん** そうなんです。Aさんが何でもしてくれるので、若い頃から甘え続けてきたようです。

**発言** 刑務所に入ったというのは？

**Kさん** シンナーによる暴力沙汰が原因です。



**発言** どのくらいの期間入っていたのですか？

**Kさん** 6カ月です。平成12年4月に出所してからは、Aさんと同居になりました。ちなみに、出所する時の身元引受人はTさんです。

**発言** Bさんは現在働いているようですが、いつから働きだしたのですか？

**Kさん** Aさんが入所してからです。家賃もきちんと払っています。

**発言** 精神科の入院歴があるようですが、最初の入院はいつですか？

**Kさん** すいません。押さえていません。

**奥川** 大事な点ですね。つまり、中学時代から始めたシンナーが、この人にいつ頃から悪さをし始めたのかということです。それと、シンナー中毒の場合、麻薬などの他の依存への移行にも気をつける必要があります。

**Kさん** なるほど……。

**奥川** もし、自分に今そういった知識がなければ、スーパーバイズやコンサルテーションをしてくださる方、あるいはその道の専門家をバックアップシステムとして、聞いていけばいいんです。そうすることで、臨床知も一つひとつ蓄えることができます。

**Kさん** はい、わかりました。

**発言** TさんとAさんの間には、愛情関係はあるのですか？

**Kさん** いえ、それはありません。むしろ、Tさんは「依存されたい症候群」なんじゃないかとにらんでいます。

**発言** TさんのAさん一家へのかかわり方の変遷をうかがいたいのですが。

**奥川** 大事な点です。

**Kさん** もともとは、Tさんのお父さんがAさんと仲がよく、Tさんは小さい頃からAさんのことを知っています。ずっと同じ地域で暮らしてきて、家族同然の付き合いをしてきました。

**奥川** Tさんのお父さんもAさんたちを支えていたのですか？

**Kさん** はい。いろいろとお世話をされていたようです。

**奥川** Tさんは、お父さんの跡を継ぐようなかたちでAさん一家をお世話してきたんですね。

**Kさん** はい、そのようです。

**奥川** 近所付き合いの延長のようなお世話が、借家の保証人や金銭管理、息子の身元引受人と、だんだんTさんのかかわりが深くなってきた状況が見えてきました。

## Cさんの現在をアセスメントする

**奥川** 次に、Cさんのことについて明らかにしてみてください。

**発言** CさんとAさんは、いつ同居し始めたのですか。

**Kさん** Cさんが生まれた直後にBさん夫婦は離婚して、妻は出て行ったきりだそうです。その直後からAさんと同居になったようです。Cさんには、母親の記憶はまったくありません。

**発言** Bさんも一緒に住んでいたのですか。

**Kさん** いえ、実際にはBさんはほとんど家におらず、県外で働いたり、ホームレスだった時期もあるようです。

**発言** Cさんは誰に育てられたのですか？

**Kさん** AさんとTさん家族です。

**発言** Tさんは、Cさんの子育てについて、ど



のようなかかわりをしてきたのですか？

**Kさん** 小さい頃は保育園の送り迎えをTさんがしていました。平成12年にBさんがCさんに売春させようとした時には、CさんはTさんのところに駆け込んで、Tさんが児童養護施設に入れています。施設に入った後も、運動会にお弁当を作っていったり、お正月には自分の家に連れて帰ってお年玉を渡したりしています。

**奥川** まるで自分の娘のようですね。

**Kさん** 本当にそんな感じです。Cさんも、いざという時はTさんのところに行きます。よく怒られるので怖いという気持ちもある半面、心の底では頼りにしていると思います。

**発言** Cさんは、自分に売春させようとした父親との同居について、どう思っているのですか？

**Kさん** 養護施設を出たいばかりに、父親と一緒に住んで高校に行くと言ったことはありますが、ホンネではありません。「おじいちゃんとは住んでもいいけど、お父さんとは住みたくない」とハッキリ言っています。

**発言** かといって、独立しようにも、就労意欲が低いんですね。

**Kさん** ええ……。

**奥川** ちょっと脇道にそれますが、「就労意欲が

低い」という言葉は、専門職は安易に使ってはいけません。「なぜ、就労に結びつかないのか」と、その理由を考えるのがプロです。

**Kさん** はい……。

**奥川** 就労意欲が低いクライアントの場合、まず何を見る必要がありますか？

**Kさん** 就労の目的、でしょうか。

**奥川** 目的をもつためにも必要なもの。つまり、知的な能力をまず見るのです。

**Kさん** なるほど——。

**奥川** Cさんの場合、職業判定を行う機関につないで、きちんと判定してもらってからでないとい「就労意欲が低い」と安易に決めつけてはいけません。そういう機関はありますか？

**Kさん** 心身障害者福祉センターや療育センターのようなところでしょうか。

**奥川** Cさんの場合、まだ児童福祉法の枠内なので、療育センターでしょうね。そういった機関がどこにあって、どんな問題を相談できるのかを押さえておくことも、相談援助職にとっては重要なことです。

**Kさん** はい、わかりました。

**奥川** 他には、いかがですか？

**発言** CさんをTさんの家で預かるというのは難しいのですか？

**Kさん** 小さい頃だったらそれでもよかったのかもしれませんが、現在のCさんは成長してしまって、おそらくTさんには手に負えないと思います。

## 臨床像を描く

**奥川** これまでのやりとりを通して、この一家



の置かれている状況やTさんのかかわりの歴史などが見えてきました。

Kさんは、在宅介護支援センターとしては、Aさんの老健施設入所により一応の役割は終わったけれども、BさんとCさんの今後の生活が気になる。2人を支えていくための方法を得たいというのが事例の提出理由でしたね。

**Kさん** はい。

**奥川** かといって、今後の2人の生活をKさん自身が支え続けていくことはできません。しかるべき時期にしかるべき専門職に委ねることが必要になってきます。つまり、Kさんはこれからケアコーディネーションをしなければならぬわけですね。そのためには、家族全体の病理を理解し、この方たちの問題の中核は何で、今どういう状況にあるのかという臨床像（クリニカルイメージ）を描くことが必要です。的確な臨床像が描ければ、他の専門職にも状況がきちんと伝わり、それぞれのニーズに合った援助計画を立てることができそうです。

それでは、今手元にある情報をもとに、現段階での暫定的な臨床像を描いてみましょう。各グループで少し話し合ってみてください。

・グループで臨床像について話し合う。

**奥川** いかがですか？ こちらのグループからいってみましょうか。

**Aグループ** はい。「Aさんは知的障害のある身重の妻と結婚し、家事全般を担いながらBさんを育ててきました。また、Bさんがつくる借金の尻ぬぐいもずっとしてきました。一方、Bさんは

中学生の頃からシンナーにおぼれ、お金がなくなると両親名義で借金をするなど、依頼心の強い性格である。現在は、Aさんの入所にともない、自分で働いて家賃を払うなど、家主としての自覚が出てきているように見える」

**奥川** はい。では、Cさんについてはいかがでしょう。こちらのグループでは、どんな臨床像が描けましたか？

**Bグループ** 私たちは、どちらかというところ今後のことを話し合いました。「Cさんは、AさんとTさんに育てられ、Bさんとはこれまで実質的な親子関係がなかった。年齢的には父親を求めている半面、強く拒否する状態にある。また、乳児期に母親と離れてしまったため、母親の愛情をまったく受けたことがない。今後は、こういった点に留意して、しかるべき専門職にサポートしてもらう必要がある」

**奥川** Tさんについてはいかがでしょう。

**Cグループ** 「Tさんは、親の代からお世話をしてきたAさん一家にずっとかかわりを持ち、Cさんを親代わりようになって育ててきたが、金銭管理や借家の保証人、Bさんの身元引受人など、負担が非常に大きくなってきている」

**奥川** ありがとうございます。Kさん、どうでしょう。皆さんが描いてくださった臨床像に追加する点はありますか。

**Kさん** 私が考えていたものとほぼ同じでした。付け加えるとすれば、Aさんの力が低下したことで、それまで潜在化していたこの家族の問題が一挙に顕在化した、という点でしょうか。それまでの完結していた依存関係が崩壊したというか――。

**奥川** そうですね。このケースの問題の中核には「依存」がありますね。また、Aさん夫婦からBさん、そしてCさんへと、世代を超えて連鎖する病理もうかがえます。このように、臨床像がきちっと描けると、具体的にどんなニーズがあるのかが浮き彫りになってきます。そこまでくれば、援助計画も自然に導き出されます。

## ニーズを明らかにし、 援助計画を立てる

**奥川** では、次にそれぞれの方のニーズを明確にしていきましょう。Kさん、いかがですか。

**Kさん** はい。このように考えました。

### ◆Bさんのニーズ

- ①シンナー依存に戻らないようにするためにも、現在の借家で居住しながら仕事を継続する必要がある。
- ②一方で、シンナー中毒に対する手当てが必要である。

### ◆Cさんのニーズ

- ①本人の意向を尊重しながら、今後の進路を決定する。
- ②安心して過ごせる生活の場を確保する。

### ◆Tさんのニーズ

- ①今後、専門職がかかわるなかでのTさんの援助目的を明確にする。

**奥川** そうですね。では、それらのニーズに対して、どのように援助をしていくか。これはいかがですか？

**Kさん** はい。まずは、Tさん、Bさん、Cさんと個別面接をして、それぞれの意向の把握と能力の見極め、そして課題の整理をします。

**奥川** それから？

**Kさん** その後、3者と合同面接をして援助の方向性を決めます。そして、その結果を踏まえて、しかるべき社会資源につなぐために、現在かかわっている機関などに集まっていただき、担当者会議を開きます。

**奥川** 担当者会議では、何を話し合いますか？

**Kさん** それぞれの役割分担と、誰が窓口になるかを決めます。

**奥川** そうですね。そこまで臨床像、ニーズ、援助方針ができていれば、途中でぶれることはないですね。ただし、今後の面接などでは、予想外のことが出てくる可能性もあります。援助関係ができると、新しい情報がどんどんできますから。もし、それが現在の自分の臨床知で対応できないことだったら、その時はとりあえず次につなげるかたちで面接をおさめてきて、バックアップシステムの力を借りて情報収集をしてから、もう一度出直せばいいでしょう。そのたびに援助計画を微修正していけばいいんです。現場の仕事はいつも暫定、暫定です。

**Kさん** はい。

**奥川** では、最後にKさん、感想をどうぞ。

**Kさん** 実は、Aさんの入所後もかかわったほうがいいのかどうか、非常に迷いがありました。自分が入ることによって、かえってゴチャゴチャになってしまうのではないかと。しかし、今日、皆さんに検討していただいたおかげで、今後の援助の方針が見えてきて、とてもスッキリしました。明日から頑張っとかかわっていきたいと思います。ありがとうございました。